

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成26年8月21日(2014.8.21)

【公開番号】特開2013-112696(P2013-112696A)
 【公開日】平成25年6月10日(2013.6.10)
 【年通号数】公開・登録公報2013-029
 【出願番号】特願2011-257584(P2011-257584)
 【国際特許分類】

C 0 9 J 175/04 (2006.01)

B 3 2 B 7/12 (2006.01)

B 3 2 B 27/40 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 175/04

B 3 2 B 7/12

B 3 2 B 27/40

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月8日(2014.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

ポリオール(A)と、ポリイソシアネート(B)とを含有する接着剤組成物であって、前記ポリカーボネートウレタンポリオール(A)が、直鎖状アルキレンジオールからなるジオール単位を80～100モル%含み、25で液状であるポリカーボネートポリオール(C)とジイソシアネート(D)とを構成成分とする、数平均分子量5,000～25,000、ガラス転移温度が-40～10のポリカーボネートウレタンポリオール(A)であり、

前記ポリオール(A)と前記ポリイソシアネート(B)とを、前記ポリイソシアネート(B)中のイソシアネート基/前記ポリカーボネートウレタンポリオール(A)中の水酸基=0.5～10/1(モル比)の範囲で、含む接着剤組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明は、ポリオール(A)と、ポリイソシアネート(B)とを含有する接着剤組成物であって、

前記ポリカーボネートウレタンポリオール(A)が、直鎖状アルキレンジオールからなるジオール単位を80～100モル%含み、25で液状であるポリカーボネートポリオール(C)とジイソシアネート(D)とを構成成分とする、数平均分子量5,000～25,000、ガラス転移温度が-40～10のポリカーボネートウレタンポリオール(A)であり、

前記ポリオール(A)と前記ポリイソシアネート(B)とを、前記ポリイソシアネート(B)中のイソシアネート基/前記ポリカーボネートウレタンポリオール(A)中の水酸基=0.5～10/1(モル比)の範囲で、含む接着剤組成物に関する。

前記接着剤組成物において、ポリカーボネートポリオール(C) 1分子あたりのカーボネート基当量は100～145 g/molであることが好ましい。